

執 筆 ・ 投 稿 規 定

1. はじめに

ご寄稿頂いております関係各位には、厚く御礼を申し上げます。

論文の書き方につきましては、既に、本研究会誌 250 号で詳細に掲載致しましたが、記述例などを加えて説明致しましたので少しくどくなり、かえって分かり難いとのこと指摘もありました。従いまして、ここでは必要最小限の内容について記述致しました。本研究会誌は、A4 版でありますのでその大きさに合わせた原稿をご執筆頂けますように、執筆・投稿規定を示しましたので参考にしてご執筆の上、ご投稿ください。

2. 使用する漢字と仮名使いおよび数字と式その他

- 2.1 漢字および仮名使いは常用漢字および現代かなづかいの使用を原則とします。
- 2.2 数字は、アラビア数字の使用を原則とします。
- 2.3 文章中に書く分数は、 $1/2$ 、 $3/123$ のようにして下さい。
- 2.4 単位記号は、SI 単位を原則とします。
- 2.5 本文中で使用する化学物質の名称は、日本語を使用し、必要な場合は、日本語の後に次のように化学式をカッコ内に記入して下さい。

【例】 硫酸 (H_2SO_4)、水酸化ナトリウム ($NaOH$)

2.6 ページの段組および余白などについて

段組み : 1 ページ、1 段組。
段落 : 最小値。
余 白 : 上 部 : 30 mm。
左・右・下部 : 各 20 mm。

を目安として下さい。

2.7 文字の大きさ (フォント サイズ)

原稿題名 : MS 明朝 14p、太字。(1 ページ目、1 行目中央にご記入下さい)
執筆者名 : 題名の下、2 行をあけて右端につめる。フォントサイズ 10p。
見出しの数字および文字 : 数字は Century、文字は MS 明朝でいずれもフォントサイズ 10p、太字。
本 文 : 執筆者名の下 1 行をあけ、本文は MS 明朝、フォントサイズ 10p。
(文章中、特に強調したい語句があれば太字にしても構いません。)
としてご執筆下さい。

2.8 用紙サイズ

用紙サイズは A4、横書きで記入して下さい。

3. 文の構成

3.1 学術論文

学術又は技術論文は次の項目を原則とします。

1. 緒言、2. 実験方法、3. 実験結果、4. 考察、5. 結論、引用文献。

－ 会 告 －

3.2 解説

解説の場合は、最初に緒言に相当する項目を、また、文末には結論に相当する項目、引用文献又は参考資料を記入して下さい。文中の各項目名は特に規定はしません。

3.3 ポイントシステムによる見出しの表示

第1章、第2章、第3章は・・・・・・1 2 3・・のようにして下さい。

各章の中で更に細分化する場合は節を追加して、

第1章の第1節は・・・・・・ 1. 1

第1章の第2節は・・・・・・ 1. 2 のようにして下さい。

・

各章の各節をさらに細分化する場合は項を追加して、

第1章、第1節、第1項は・・・・ 1. 1. 1

第1章、第1節、第2項は・・・・ 1. 1. 2 のようにして下さい。

・

更に項目が細分化される場合は、1)、(1)、①などの順に細分化して下さい。

また、見出しの数字および見出しの文字は太字にして下さい。

4. 見出しの名称例（解説は除きます）

- 1. 緒 言
- 2. 実験方法
 - 2.1 アルミニウム試験材
 - 2.2 硫酸電解液の調整法
 - 2.2.1 硫酸電解液の濃度
 - 2.2.2 硫酸電解液の分析法
 - 1) 遊離硫酸の濃度測定法
 - 2) 溶存アルミニウムの濃度測定法
- 3. 実験結果
 - 3.1 硫酸電解液の分析結果
 - 3.1.1 遊離硫酸の濃度測定結果
 - 3.1.2 溶存アルミニウムの濃度測定結果

- 4. 考 察
- 5. 結 論

参考文献

【参考文献の記入方法】

論文：執筆者氏名；掲載誌， 巻（太字）， ページ（発行年）

記入例：吉村長蔵，野口駿雄；金属表面技術， 22, 568(1971)

単行本：執筆者氏名；参考本の名称， ページ（発行年， 発行所名）

記入例；1) 中山孝廉；アルミニウムの表面処理，p148(昭和44年，日刊工業新聞社)

－ 会 告 －

2) 金属表面技術協会編;金属表面技術講座 8 陽極酸化, p24(昭和44年, 朝倉書店)

5. 図(または写真)および表について

5.1 図(または写真)および表には番号を付けて下さい。

5.1 文字の大きさ(フォントサイズ)

図(または写真)、表の題名および説明文はいずれも10pで記入して下さい。

5.2 図の題名および図中の説明文

図(または写真)の題名(太字)および説明文は、図の下に記入して下さい。

5.3 表の題名および表の説明文または条件など

表の題名(太字)は表の上に、説明文は表の下に、いずれも太字で記入して下さい。

5.4 本文中への図および表の番号の記入法

本文中での図1や表1などは、太字で記入して下さい。図や表を見た場合に、その説明文がどこに書いてあるかを分かり易くするためです。

【例】硫酸濃度と皮膜厚さの関係を図1に示す。また、・・・・・・各電流密度での電解時間と皮膜厚さの関係を表1に示し・・・・・・。

6. おわりに

送って頂いた原稿につきましては、編集委員で添削を行い、内容に不明な点があれば質問書を付け、また、訂正する必要がある場合は訂正したうえで、執筆者に一度返送致します。電話で確認させて頂く場合もあります。質問の内容についての説明が適切であれば、また、審査委員が訂正した箇所については了解して頂いたかを確認した後、会誌へ掲載させて頂きます。最初は大変面倒なことだと思われるかも知れませんが、是非投稿をお願い致します。

なお、本誌に投稿して頂いた論文その他の内容に関しての一切の責務(文責)は、執筆者が負うものとしますのでご了承下さい。

以上

なお、原稿送付先は、下記の通りです。

郵送して頂く場合：〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4-1

近畿大学工学部応用化学科 応用制御化学研究室内

近畿アルミニウム表面処理研究会 宛

メール送信して頂く場合：taka-f@apch.kindai.ac.jp

－ 会 告 －

【 投稿規定 付属書 】

- 1) 漢字は、原則、当用漢字とします。
 接続詞、副詞などの記入は表1に準じます。

表1 当用漢字の読み方・記入(1981年)の一例

漢字	読み	記入例*
為	ため(に)	為に
主	おも(に)	主に
外	そと、ほか、はず(す)	外(ほか)、外す、外れる
既	すで(に)	既に
及	およ(ぶ)、およ(び)、およ(ぼす)	及ぼす
事	じ、こと	事
従	じゅう、したが(う)、したが(える)	従う、従って
尚	しょう	なお
等	とう、ひと(しい)	等しい、など
又	また	又、又は
未	み	まだ
有	う、ゆう、あ(る)	有る

※記入例では漢字表記可能な字は漢字で、平仮名表記は平仮名で記入。
 例えば「為に」は漢字の使用が可能。「なお」は原則平仮名を使用。

- 2) 本文中または図表中の単位記号は原則としてSI単位とします。

表2 SI 基本単位

量	名称	単位記号
長さ	メートル	m
質量	キログラム	Kg
時間	秒	s
温度	ケルビン	K
物質量	モル	mol
電流	アンペア	A
光度	カンデラ	cd

表3 SI 組立単位

量	SI 組立単位*
体積	m^3
面積	m^2
密度	Kg / m^3
電流密度	A / m^2
濃度	mol / m^3
圧力	Pa

※ SI 組立単位： SI 基本単位を組み合わせる単位

表4 非 SI 単位と SI 単位との関係例

量	非 SI 単位	SI 単位
長さ	1 Å (オングストローム)	$1 \times 10^{-10} \text{ m}$
	1 μm (ミクロン)	$1 \times 10^{-6} \text{ m}$
体積	1 l	$1 \text{ dm}^3 = 10^{-3} \text{ m}^3$
	$1 \times 10^3 \text{ l}$	1 m^3
質量	1 t	10^3 Kg
温度	t °C	$(t + 273.15) \text{ K}$
濃度	1 M (モル)	$10^3 \text{ mol} / \text{m}^3$
時間	1 min	60 s